

ご存知ですか

後期高齢者の 負担割合が変わります



後期高齢者医療制度の改正により、医療費の自己負担割合が見直されます。これまで現役並み所得の方はかかった医療費の3割、それ以外の方は1割を医療機関などの窓口で支払っていただいていた。今回の見直しにより、2022年10月1日から、75歳以上の方等で一定以上の所得がある方(現役並み所得者を除く)は、医療費の窓口負担割合が2割になります。

2022年9月30日まで	
区分	自己負担割合
現役並み所得者	3割
一般所得者等	1割



2022年10月1日から	
区分	自己負担割合
現役並み所得者	3割
一定以上所得のある方	2割
一般所得者等	1割

※現役並み所得者の方は、10月1日以降も引き続き3割です。
※自己負担割合は前年度の住民税課税所得に基づいて、世帯ごとに判定されます。

《新たに保険証が届きます》

今回の見直し内容を反映した保険証が、お住まいの自治体より9月中旬にすべての被保険者へ送付されます。10月以降の負担割合も記載されていますので、ご自身の窓口負担割合が何割になるかは、ご確認ください。

また、医療機関や薬局の窓口などで保険証を提示する際は、記載された「有効期限」を必ず確認し、10月からは新しく交付された保険証をお使いください。

※医療費窓口負担割合の見直しに関するお問い合わせは、お住まいの自治体窓口へお願いいたします。

医事会計システム変更に伴うお願い

9月18日(日)に、院内の医事会計システムを更新いたします。しばらくの間、窓口でお待たせしてしまうことが予想されます。患者さまにはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。



また、亀田クリニックでは会計窓口でお渡ししている書類(領収書、薬引換券、予約票、診療費明細書)の様式が変更され、サイズがA5版に統一されます。

亀田クリニック3階 採血・採尿室の

受付方法が変わります

10月11日(火)より、亀田クリニック3階の採血・採尿室の受付が機械に変わります。

患者さまは診察券を差し込むだけの簡単操作で受付が完了。採血が必要な方には整理券、採尿が必要な方には採尿カップが受付機から発行されます。

採血の待ち時間が待合室設置のモニター上で確認できるようになるほか、採血の呼出も音声からモニターでの整理番号表示に変わりますのでご注意ください。

※次号(10月1日号)の亀田ニュースで詳しく紹介します。



高速バス「アクシー号」をご利用の方へ

東京ミッドタウン八重洲内地下に「バスターミナル 東京八重洲」が新設されました。これに伴い、9月17日(土)より高速バス「アクシー号」(鴨川～東京線)の東京駅八重洲口の発着場とダイヤ、運賃等が変更になります。ご利用の際は、念のためご乗車前にご確認ください。

詳しい乗り場や時刻等は、運行会社(日東交通・京成バス)にお問い合わせください。



漢方のチカラ

東洋医学診療科 南澤 潔

第9話 漢方診療の実際

実際の漢方の診療というのは、どのようなものなのでしょう？「白髪の老人が手をかざして得体のしれない呪文を唱える」的なことを思っておられる方もいらっしゃるようで…(*^^*)



しかし、実際はいたって普通の診察です。通常、病院に行くと症状や経過を詳しく聞かれる「問診」や「身体診察」、採血や画像などの「検査」を経て診断、治療方針の決定に至ります。漢方でも基本的には同じです。とはいえ科学的な検査のない時代に確立した診療法ですから、診察は医療者の五感；視覚・聴覚・嗅覚・触覚(味覚はさすがに使いません)を最大限活かして行います。

漢方の診察は「四診」といって「望・聞・問・切」という4つの診察方があります。望診・聞診は外見や声音などを、視覚聴覚嗅覚をフル動員して観察します。四診のなかでも一番重要と言われていて、望診・聞診でピンとくるような処方、多くの場合よく効くものです。もちろんただの「外見」だけではなく、診察室に入ってくる時の足の運び、視線の動きから始まり、姿勢、手足の動きや声の張り、呼吸、喋り方などから多くの大切な情報が得られます。

「見た目で判断する」などという非科学的で不安になるかもしれませんが、実は現代医学でも優秀な医師は「なんかおかしい」といった感覚を大事にしているものです。そう感じる理由をはっきり説明するのは難しくても、患者さまの体に起こっている重大な異変を、些細な兆候の組み合わせから鋭敏に感じ取っているのです。これはなにも医師に限ったことではありません。

救急などで「小児患者の親御さんが“なにかいつ

もと違う”と訴える場合には、診察や検査で異常がなくても慎重に対応するように」と昔教わりました。平日頃つぶさに我が子を観察している親ならではの鋭い洞察力が、まだ検査に出ないような初期の段階での異変を嗅ぎ取っていることが時々あるからです。

問診は現代医学と同じく具体的な症状や経過に加え、漢方ではさらに普段の様子や前後の体調について根掘り葉掘り詳しくお聞きします。食欲、便通、睡眠や月経の不調などまで事細かく問診票や直接お話を伺って掘り下げていきます。「頭痛を治して欲しくて来たのに、便秘や生理がどういう関係があるのか？」と不審がられることもあります。漢方は頭痛の治療でも、だるさの治療でも、めまいの治療でも、とにかく心身含め全身の状態を総体的に把握しないと正しい診療が行えないのです。したがって初診の患者さまは非常に時間がかかるため、完全予約制で、通常30分以上の診察時間に加え、問診票の記入にさらに予約の30分前に来院していただいています。

当科にはありとあらゆる症状や悩み事を抱えた患者さまがいらっしゃいます。どの科に行ったら良いかわからない、またはかつていろいろな科を受診してみたけど専門外だと断られてしまっていて諦めている、というような症状でも、漢方では良い解決策があることもあります。逆に「こんなすぐ治るでしょう？」というようなことにすぐ苦勞することもあるのですが…。

東洋医学診療科では漢方に限らず、時には現代医学の治療も併用したり、専門科へ紹介して並行して治療していくこともあります。「こんなこと病院で話しても仕方ない」と思われているようなお話が、漢方では重要な意味を持つこともあります。特に初診時は気になることなどはできるだけ全部お話しください。



残念ながらお一人お一人からすべてのお話をじっくり伺う時間は取れないことも多いので、気になっていることをあらかじめメモなどにまとめてきていただけると、効率よく対応できます。

医療エッセイのバックナンバーは下記よりご覧いただけます

<http://www.kameda.com/ja/general/about/magazine/index.html>



医師紹介

おおの やすお 医師
大野 烈士



- ①担当科目
- ②診療における得意分野
- ③趣味
- ④ひと言

- ①腫瘍外科 部長
- ②胸腹部悪性腫瘍の外科治療、特に再発に対する外科治療
- ③読書
- ④ともに最善の治療について考えていきましょう。



Kameda Medical Center

亀田ホームページ <http://www.kameda.com>